



やあ! yaa!

URL:<http://tia21.or.jp/>

E-mail:tia@tia21.or.jp



▲医療ソーシャルワーカーとの意見交換会



▲熱心に語る臨床心理士の山岡祥子氏

「相談員・通訳協力者実務研修会」開催

11月5日(土)、平成23年度第1回相談員・通訳協力者研修会がとちぎ国際交流センターで開催され、TIAの通訳協力者や相談員等29名が参加した。栃木県カウンセリング協会の臨床心理士 山岡祥子氏を講師に迎え、相談業務や通訳内容の守秘義務などからくるストレスとの上手なつきあい方について学んだ。講演の最後には、ストレス解消に有効な呼吸法や筋肉弛緩法などを実践した。

また、講演後は、自治医科大学附属病院、独協医科大学附属病院、済生会宇都宮病院、栃木県立岡本台病院の医療ソーシャルワーカーと、医療通訳依頼体制の改善点や今後の課題についての意見交換会を行った。各医療機関と通訳協力者がお互いの役割を知る良い機会となった。

2011年12月号

No.117

Winter

- ◆やあ! クローズアップ
- ◆国際交流団体紹介
- ◆とちぎへようこそ
- ◆JICA 情報局

とちぎインターナショナルフェスティバル2011開催
公益財団法人 AFS 日本協会栃木支部
平成23年度栃木県海外技術研修員
「栃木から世界へ」
平成23年度2次隊JICAボランティア

「日本語教育セミナー」開催

全国的な日本語教育の流れを知る初めてのセミナーを「本当のコミュニケーションを目指した日本語支援」と題して11月4日(金)とちぎ国際交流センターで実施した。日本語教室のボランティアなど31名が参加。講師は公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)専任講師の品田潤子氏。外国人が日本語で、実のある会話ができるようになる指導方法や会話と文法を効果的に組み合わせる方法を学んだ。



▲いつも外国人学習者の目線で指導をする品田先生

また、私たち日本人は、積極的に周囲とコミュニケーションを図っているか、自分自身の行動を振り返る必要があることや、外国人について関心を持ってもらうよう一人一人が周りに働きかけることも大切であるなど充実した講義内容だった。

「日本語ボランティア情報交換会」開催

日本語支援を通じた防災をテーマとした情報交換会を8月26日(金)にとちぎ国際交流センターで実施した。日本語教室のボランティアの他、行政、外国人支援者など幅広い分野から、29名が参加。前半は、小山市国際交



▲参加者の皆さんと金子先生

流協会と清原地区国際交流会から震災後の外国人の動向や防災の取り組みについての報告。また、外国人への情報伝達の方法等についてグループで話し合った。後半は宇都宮大学講師の金子正子氏に



▲各グループのアイデアを共有

よる「やさしい日本語」の講義。熟語や専門用語は外国人には分かりづらいため「交通機関」は「電車やバス」、「通行止め」は「通ることができない」など「やさしい」日本語に言い換えるだけで、外国人に十分伝わることを学んだ。

「災害時外国人サポーター養成セミナー「東日本大震災をふりかえって」開催

東日本大震災の際に行った栃木県内の外国人支援活動をふりかえり、災害時にどのように外国人をサポートしたらよいかを考えるセミナーを、9月3日(土)、とちぎ国際交流センターで開催し、40名が参加した。まず、TIA及び真岡市が外国人支援活動内容を報告(6月号参照)。次に、4名の外国人によるパネルディスカッションでは、真岡市国際交流協会通訳相談員の高橋隆氏(ペルー)が避難所巡回の様子を、デスクタイ・グループ代表のラタナポン・タナノン氏(タイ)がタイ人ネットワークを通して行った支援内容を、ハローワーク宇都宮通訳の中島里美氏(ブラジル)が日頃の通訳活動で繋がっている外国人からの相談内容を、栃木県国際課国際交流員のリンジー・ネルソン氏(アメリカ)が外国語指導助手からの相談内容などを話した。後半の「翻訳シミュレーション」では、ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、タイ語、やさしい日本語の各言語に分かれ、今回の震災でTIAが実際に発信した情報を体験翻訳し、翻訳の際の注意点などを学んだ。



▲様々な支援活動を報告したパネルディスカッション(右からリンジーさん、中島さん、ラタナポンさん、高橋さん)

県内の高校生5人がフランス・ヴォークリューズ県へ

栃木県、栃木県教育委員会、TIAの三者が主催する「栃木県日仏青少年短期研修事業」で、県内の高校生5名が、11月2日(水)～15日(火)の14日間、パリ及び栃木県と友好交流を行っている南仏ヴォークリューズ県



▲ホストシスター・ブラザーと一緒に

を訪問し、ヴェゾン・ラ・ロメヌ高校での体験通学及び同校生徒宅でのホームステイ、またパリやヴォークリューズ県内の視察を行った。

訪仏したのは、宇都宮北高校2年の安藤美波さん、宇都宮東高校2年の稲垣朝美さん、佐野日本大学高校2年の小泉杏奈さん、宇都宮中央女子高校2年の末永寿恵さん、宇都宮高校2年の鶴蒔望さん。帰国後の報告会で、授業中生徒が積極的に先生に質問する姿に感心したことや、ホームステイで家族の一員として温かく迎えてくれたこと、また、フランス高校生の前で東日本大震災について発表し、皆が興味をもって聞いてくれたことなどを報告した。この研修をとおして、それぞれ多くを学び、ひとまわり大きくなった。

県民外国語講座「はじめての韓国語・中国語」開講

TIAでは、今年度県民外国語講座「はじめての韓国語」、「はじめての中国語」の2講座を開講した。「はじめての韓国語」は9月17日(土)

～12月3日(土)の全10回で、受講者は24名。講師はキム・ヒョンジュン氏。ハングル文字や簡単な会話、韓国の歌などを学び、受講者は、楽しく授業に取り組んでいた。



▲いつも元気なキム先生

「はじめての中国語」は10月15日(土)～12月17日(土)の全10回で、受講者は12名。講師は張恵文氏。中国語の発音をメインに、中国の漢詩や歌、簡単な中国語会話の練習を行い、



▲張先生と楽しく勉強する受講者

小人数制のグループレッスンで、和気あいあい、中国語のリズムをつかんでいた。

やあ！クローズアップ とちぎインターナショナルフェスティバル2011

今年度で22回目、そして今回で最後となる「とちぎインターナショナルフェスティバル2011」が、10月1日(土)、わくわくグランディ科学ランドで開催された。このフェスティバルにはTIAを含む46団体が参加し、約5,000人が会場を訪れた。

テントやブースでは、団体活動紹介、外国や日本の文化紹介、各国の飲み物や料理の試飲・試食、民芸品の展示・販売、国際理解を深めるゲームなどが行われ、来場者を楽しませてくれた。また、ビッグパラソルのステージ・プログラムでは、国際色豊かな踊り、歌、演奏などが披露され、たくさんの観客を魅了した。



▲ベトナム麺料理のフォーを味わう来場者



▲魅惑のベリーダンスでは観客がくぎづけ



▲餅つきの実演販売



▲会場のみならずサンバでダンス！



▲台湾の伝統的なヨーヨーで遊ぶ子どもたち



▲表現力豊かなタイの踊り

国際交流団体紹介 「公益財団法人 AFS 日本協会栃木支部」

～Connecting Lives, Sharing Cultures～ 人とつながる、世界と生きる。

AFS はニューヨークの国際本部を中心に世界50カ国以上の国・地域にネットワークを持ち、より公正で平和な世界の実現に向けて、高校生の交換事業を中心に、世界 80 カ国で年間 12,000 人を越える交流を行っている国際的なボランティア団体です。

世界各国の高校生が1年間、家族の一員としてホストファミリーと共に生活しながら、その地域の高校に通学し、互いに異なる文化や考え方を認め合い、共に語り共に歩みながら相互理解に努める、異文化理解体験の機会を提供し、支援しています。日本には70の支部があり、3,500人のボランティアが活動しています。栃木支部は35年間に250人の留学生を受入れ、300人近い高校生を海外に送り出しました。2011年度は震災の影響で、留学生の来日が5ヶ月延期となり、約半数がキャンセルしましたが、8月末に栃木支部に2名が到着しました。現在、県立宇都宮高校に通うタイ出身のタイガー君は漫画とコンピューターのプログラミングが好きで、栃木は景色が美しく、餃子が大好きとか。一方、県立栃木翔南高校に通うメキシコ出身のアンジーさんは、剣道部に所属し、ダンスやスポーツが好きで、栃木でお祭りやお寺など日本文化に触れ、好きになったと話しています。留学生は、毎日元気に自転車で通学し、授業や部活、修学旅行、学校祭やマラソン大会など日本の高校生活を体験中です。また若者の内向志向が問題視される中、栃木からは10人の高校生がパナマ、マレーシア、カ

ナダ、ドイツ、メキシコ、インドネシア、USA で異文化体験にチャレンジ中。視野を広げ、大きく成長して帰国する日が待たれます。

支部活動は留学生の受入サポートを中心に、受入家庭や学校を募集し、滞在中は生徒の適応状態を見守りながら、家庭・学校との連絡や相談、オリエンテーションや歓迎会などの行事を実施。毎年恒例の壬生町のイチゴ狩りや鹿沼の秋祭り参加やホームステイ、小中学校訪問などを通して、できるだけ多くの地域の人々と直接的な交流の機会を持つようになっています。他団体のボランティア講師の協力によるマンツーマンの日本語学習支援は大きな助けになっています。JA 全農とちぎさんからは留学生へのお米支援、田植え・稲刈り体験の提供をいただくなど、地域の多くの皆様のご支援のおかげで有意義な留学生活を送っています。帰国後も栃木を第2の故郷として再来日する生徒も多く、ホストファミリーの皆様も生徒の育った国を訪ねたり、その後の活躍や結婚など、成長を楽しみにされています。今回の震災直後には多くの留学生から心配の電話やメールが届き、国境を越えた人と人の絆の大切さを再確認しました。これからも世界の若者との交流を通して、世界が平和に近づけるよう願って、AFS活動を続けてまいりますので、皆様のご支援とご協力よろしく御願い致します。(文：船田千絵)



▲今年度の AFS 留学生 (左からタイガーさん、アンジーさん)

ようこそとちぎへ *Welcome to Tochigi*

平成 23 年度栃木県海外技術研修員



▲デザイン会社で研修中のヴェロニカさん

9月1日(木)に、海外技術研修員が栃木県にやってきました。今年の研修員はブラジル人1名で、1か月半の日本語研修を終了後、現在は、専門技術を磨くため、研修機関でがんばっている。約5か月の研修後、来年の1月末に帰国する予定。

大貫 ヴェロニカ ゆり

Onuki Veronica Yuri

(ブラジル連邦共和国出身・25歳)

- 推薦機関: 在伯栃木県人会
- 専門研修: デザイン
- 研修機関: graphicman
- 趣味・特技: パソコン、料理をつくること。
- 栃木県に来て感じたこと。
したいこと: 栃木県は景色がきれい。栃木県の人々は、優しい。いろいろな所に旅行に行きたい。



▲とちぎインターナショナルフェスティバル 2011 で着物を試着

JICA 情報局

【栃木から世界へ】 平成 23 年度 2 次隊 JICA ボランティア

平成 23 年度 2 次隊 JICA ボランティア 5 名が 10 月に東南アジア 2 カ国・中東・アフリカ・中南米に向けて出発しました。幼い頃からの夢であった青年海外協力隊への参加を長年待ち望んでいた 2 名にインタビューしてみました。

【青年海外協力隊 2 名の方の活動内容 & 抱負です。】



横松靖子さん

(ヨルダン/作業療法士/宇都宮市出身)

【活動内容】障害をもった子どもたちを中心に、ヨルダン南部にあるマアンという町でリハビリテーションに関わってきます。

【抱負】言葉も人も全く分からない国で不安も沢山ありますが、ヒジャブ(イスラムのスカーフ)が似合うぐらいに現地にはたってきたと思います。



上村慶さん

(バングラデシュ/感染症対策/上三川町出身)

【活動内容】ポンチョゴル県保健衛生事務所に配属され、バングラデシュ北部のフィラリア撲滅プログラムに参加します。

【抱負】バングラデシュのフィラリア(寄生虫)対策に貢献し、将来の研究にその経験を役立てたいです。

★2年間の草の根ボランティアをがんばってきてください。

【問合せ】TIA 内 JICA 栃木デスク 028-621-0777

賛助会員募集!!

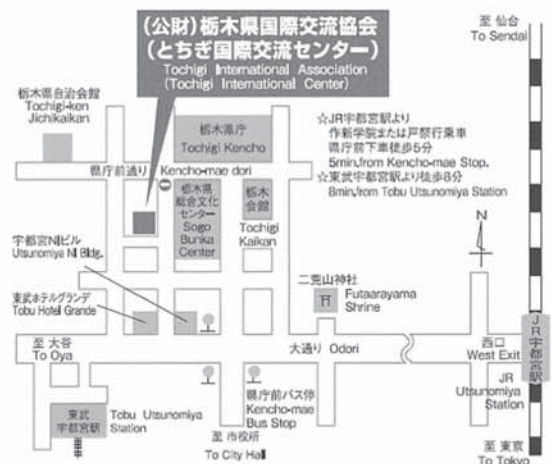
TIA では、賛助会員を募集しています。
皆さまからの賛助会費は、TIA のさまざまな事業に使わせていただき、地域の国際化に役立てています。ぜひ TIA の賛助会員の入会のご検討をお願いします。

TIA バナー広告募集中!

TIA のホームページにバナー広告を掲載してみませんか? 法人賛助会員の方は、半年間、無料でバナー広告が掲載できます。詳しくは下記 URL をクリック!

<http://tia21.or.jp/banner.html>

TIA ご案内図



編集・発行 公益財団法人栃木県国際交流協会
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町 9-14 とちぎ国際交流センター内
T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
F A X 028-621-0951
業 務 時 間 8:30~17:15
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日